

2 (2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立て

日々の授業において「主体的・対話的で深い学び」の視点を基に質的改善を図るためには、どうすればよいのでしょうか。「対話的な学びが大切だから、話し合いをさせよう」「ペア学習とグループ学習をさせてみよう」という声を聞くことがあります。授業の中に話し合いを取り入れれば、「対話的な学び」は実現するのでしょうか。今回の学習指導要領の改訂に際して、(『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』)には、「主体的・対話的で深い学び」について、「形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、子供たちそれぞれの興味や関心を基に、一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出すことを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものである」⁽¹⁾と示されています。日々着実に行われてきたこれまでの授業を否定するということではなく、これまで以上に質的に高めていくことが求められているということです。新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」の視点からの質的改善とは、言い換えると、これまで「無自覚に行ってきた（自然と成果が出ていた手立て）」や「よいと言われる、思われる手立てを無自覚に行ってきた自身の授業」を「『主体的・対話的で深い学び』とはどういう学びか」「目の前の児童にどのような資質・能力を身に付けたいのか」を「自覚」して、授業を改善するということだと考えます。

以上の考えを踏まえ、本研究委員会では、個々の教師が、児童の実態と自身の授業の実態を十分に把握した上で、授業の質的改善を図ることが大切だと考えます。児童の実態は、学校、学年、学級によって違っており、個々の教師の指導も同様に違っていると考えるからです。目の前の児童の実態は、日々の教師の指導の結果であるという考えの下、本研究委員会では、授業の質的改善の手順を図 1 のように考えました。

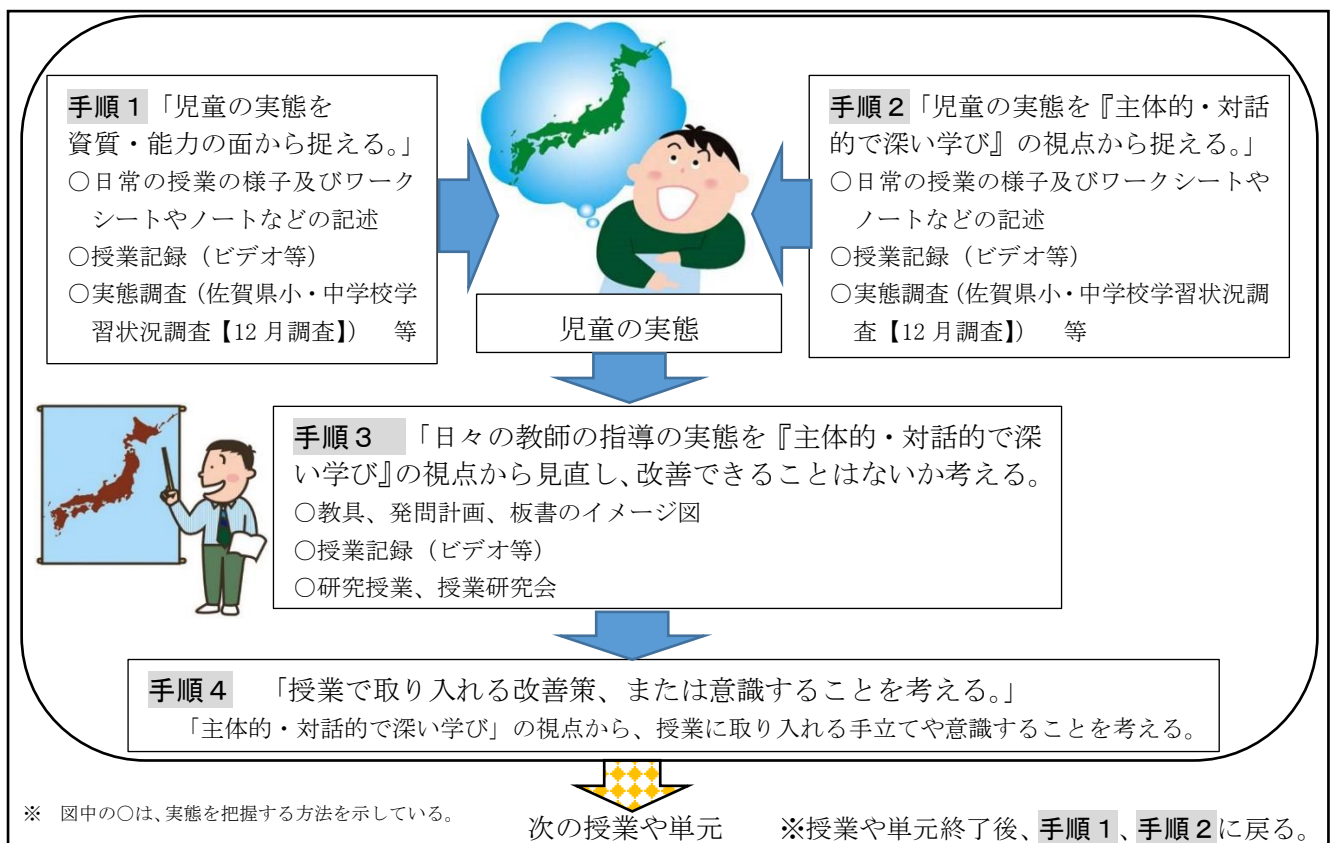
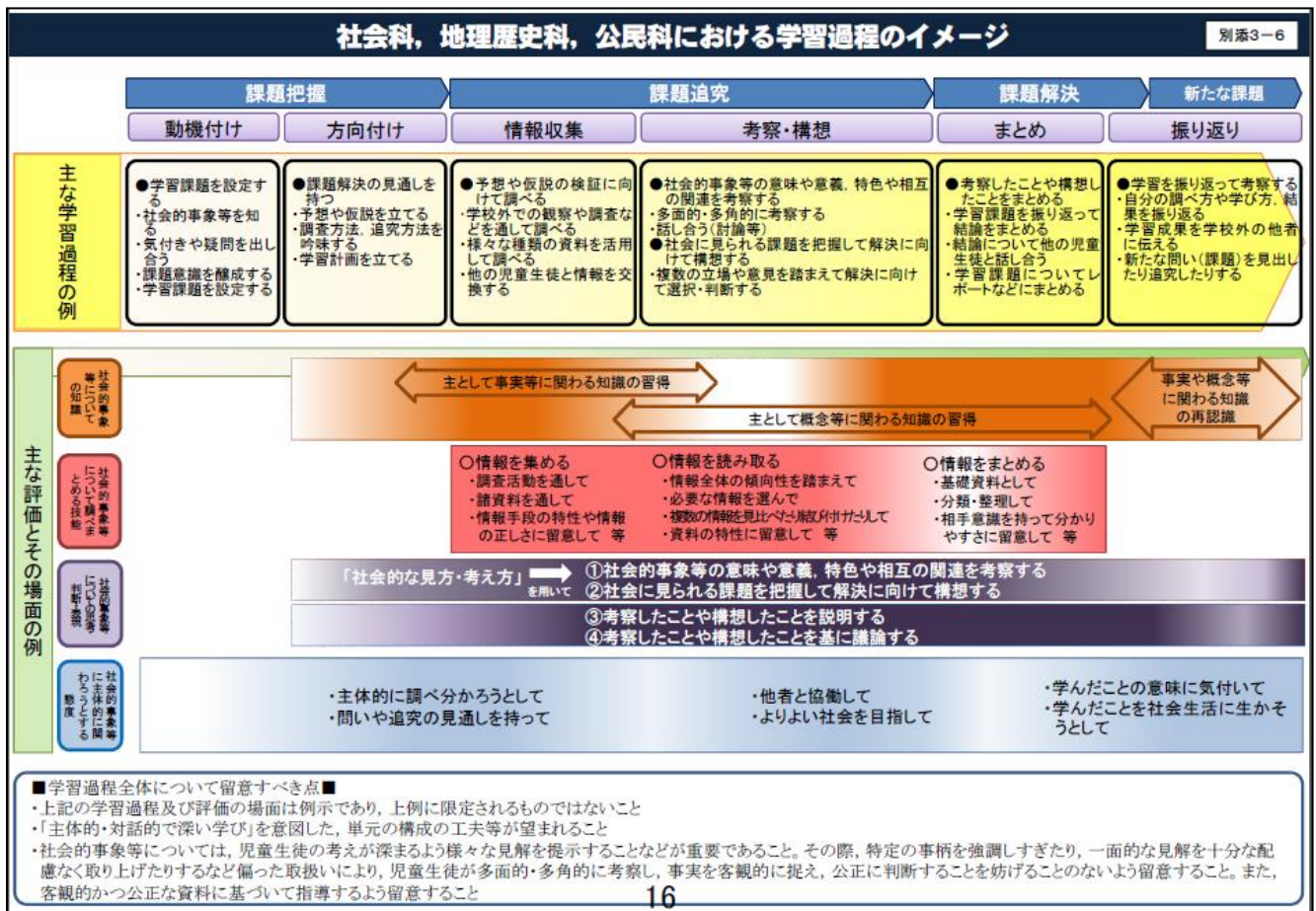


図1 授業の質的改善の手順

本研究では、前頁図 1 の手順に沿って、日々の授業の質的改善を無理なく進めることができるように、手引きを作成しました。授業の質的改善を行うには、児童の実態把握を十分に行うことが必要です。手引きには、社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ（図 2）を基に、それぞれの学習過程「課題把握（動機付け、方向付け）」「課題追究（情報収集、考察・構想）」「課題解決・新たな課題（まとめ・振り返り）」における児童の具体的な姿を整理しました。具体的には、各学習過程の中に 2(1)新学習指導要領に関わる理論研究で捉えた「育成を目指す資質・能力」に基づく児童の姿と「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく児童の姿を起こしました（次頁図 3）（次頁図 4）。手順 1 では、図 3 の手引きを使って、児童の実態を資質・能力の面から捉えます。手順 2 では、図 4 の手引きを使って、児童の実態を『主体的・対話的で深い学び』の視点から捉えます。手順 3 と手順 4 では、図 5 の手引きを使って、日々の教師の指導の実態を『主体的・対話的で深い学び』の視点から見直し、改善できることはないかを考え、授業で取り入れる改善策または意識することを決定します。その後、改善策を取り入れた授業を行った結果、児童がどのように変容したかを、手順 1 と手順 2 に戻って見取ります。手順 1 から手順 4 を日常的に繰り返していくことで、教師の授業が質的に改善され、その結果、児童に三つの資質・能力が育成されていくと考えます。

図 2 社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ⁽²⁾

手順 1 【児童の実態を資質・能力の面から捉える。】

子供たちはできていますか。チェックしてみてください。☑が付かない場合は、⇒が示す手立てについて自分の指導を振り返ってみましょう。						
学習過程⇒	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
知識・技能⇒	(1) 個別の具体的な知識に関する内容を記述することができる。☐ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (2) 個別の具体的な知識に関する内容を関連付けて(つなげて)、記述することができる。☐ ⇒C⑩⑪へ (3) 個別の具体的な知識に関する内容を総合して(まとめて)、記述することができる。☐ ⇒C⑫、D⑬へ					
思考力、判断力、表現力等⇒	(1) 学習問題や本時のめあてを解決するために必要な資料を集めることができる。☐ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (2) その資料がどのような資料に分かっている。☐ ⇒C⑩⑪⑫へ (3) 事実を正確に読み取っている。☐ ⇒C⑬⑭⑮⑯へ (4) 学習問題や本時のめあてを解決するために有用な情報を選んで読み取っている。☐ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (5) 目的や自分の意図に基づいてまとめることができる。☐ ⇒C⑩⑪⑫へ					
主体的に学習に取り組む態度。⇒	(1) 資料を基に気付きを持つことができる。☐ ⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (2) 資料を基に疑問を持つことができる。☐ ⇒A⑩⑪⑫へ (3) 気付きや疑問を調べる観点ごとにグループ分けをすることができる。☐ ⇒B①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (4) 気付きや疑問から、キーワード(問い)をつくることできる。☐ ⇒A⑩⑪⑫へ (5) キーワード(問い)を関連付けて、大きな問いをつくることできる。☐ ⇒A⑬⑭⑮⑯へ					
	(1) 学習問題や本時のめあて(課題)の解決のために、調べた事実を基に、自分の考えを持つことができる。☐ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (2) 本時で分かったことから、新たに調べたいことを考えることができる。☐ ⇒C⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ (3) 本時で分かったことを基に、学習問題の解決のために次から何を調べるとよいか考えることができる。☐ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ					
	(1) 調べた事実を基に、考えられることを書き出すことができる。☐ ⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (2) 解決に必要な情報を判断し、それらを基に自分の考えを表現することができる。☐ ⇒C⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ (1) 自分の考えを明確にして、意見を述べたり、記述したりすることができる。☐ ⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (2) 資料を使って意見を述べたり、記述したりすることができる。☐ ⇒D⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ (1) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考えることができる。☐ ⇒C⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ (2) 様々な立場や視点ごとに、メリット・デメリットを考えた上で、一番重視したい立場を選択することができる。☐ ⇒C⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ (3) 様々な立場ごとのメリット・デメリットを総合的に考えて、社会的現象の意味について考えることができる。☐ ⇒C⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ (4) 実現可能性を踏まえた上で、課題の解決策を考えることができる。☐ ⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ					
	(1) 本時のめあてを解決するために、何を調べるとよいか見通しを持っている。☐ ⇒B①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (2) 今調べたり考えたりしていることが、学習問題の解決のためにどのようにつながっているか理解している。☐ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ					
	(1) 社会的現象について、実感や切実感を持って調べたり考えたり、話し合ったりすることができる。☐ ⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨、F①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ (2) 社会的現象について自分達の生活と照らし合わせて考えることができる。☐ ⇒A⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯、F⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ (3) 調べたことや考えたことを基に、今後の生活に生かせることはないか考えることができる。☐ ⇒F⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ					

授業の質的改善を図るための手引き (手順 1)

図 3 各学習過程において育成をめざす資質・能力を整理したもの(手引き_手順 1)

* 「学びに向かう力、人間性等」については、学習活動における評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」として表す。

手順 2 【児童の実態を「主体的・対話的で深い学び」の視点から捉える。】

子供たちの様子はどうか。チェックしてみてください。☑が付かない場合は、⇒が示す手立てについて自分の指導を振り返ってみましょう。						
学習過程⇒	課題把握		課題追究		課題解決	新たな課題
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
「主体的・対話的で深い学び」の視点から捉えた児童の姿⇒	○社会的現象に興味や関心を持っている。☐ ⇒A①②③④⑤⑥⑦⑧⑨、F①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ ○目的意識を持って追究活動を行っている。☐ ⇒A⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯、C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ ○自らの学習を振り返り、次の学習につなげている。☐ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ ○個人で調べたり考えたりしたことを、他者と交流したり、議論したりすることで、新たな考えに気付いている。☐ ⇒A⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯、F⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ ○個人で調べたり考えたりしたことを、他者と交流したり、議論したりすることで、自分の考えを広げている。☐ ⇒A⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯、F⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ ○個人で調べたり考えたりしたことを、他者と交流したり、議論したりすることで、自分の考えをより妥当性のあるものになっている。☐ ⇒C①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ ○社会的現象についての見方・考え方を、社会的現象の中から自ら問いを見いだしている。☐ ⇒A⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯、B①②③④⑤⑥⑦⑧⑨へ ○社会的現象についての見方・考え方を、調べたことを関連付け(つなげて)たり、総合し(まとめ)たりして考え、社会的現象に対する理解を深めている。☐ ⇒C⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯、D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ ○社会的現象についての見方・考え方を、様々な社会的現象の意味や特色について考えている。☐ ⇒D①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯へ					

図 4 「主体的・対話的で深い学び」の視点から捉えた児童の姿を整理したもの(手引き_手順 2)

手順 3・手順 4 【日々の教師の指導の実態を「主体的・対話的で深い学び」の視点から見直し、改善できることはないか考え、授業で取り入れる改善策、または意識することを決定する。】

学習過程⇒	先生は、手順 1・手順 2 で示した手立てを取り入れたり、意識して行っていますか。チェックしてみてください。図が付かない場合は、授業に取り入れてみましょう。					
	学習過程	課題把握	課題追究	課題解決	新たな課題	振り返り
学習過程⇒	主たる学習過程の例 ●学習問題を設定する。 ・社会的現象を知る。 ・気付きや疑問を出し合う ・課題意識を醸成する。 ・学習問題を設定する。	動機付け ●課題解決の見直しを持つ。 ・予想や仮説を立てる。 ・調査方法、追究方法を吟味する。 ・学習計画を立てる。	情報収集 ●予想や仮説の検証に向けて調べる。 ・学校外での観察や調査などを通して調べる。 ・様々な種類の資料を活用して調べる。 ・他の児童生徒と情報を交換する。	考察・構想 ●社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する。 ・多面的・多角的に考察する。 ・話し合う(討論等) ●社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する。 ・複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する。	まとめ ●考察したことや構想したこと をまとめる。 ・学習課題を振り返り、結論をまとめる。 ・結論について他の児童生徒と話し合う。 ・学習課題についてレポートなどにまとめる。	新たな課題 ●学習を振り返って考察する。 ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る。 ・学習成果を学校外の他者に伝える。 ・新たな問い(課題)を見いだしたり追究したりする。
	主体的・対話的で深い学びの視点から捉えたポイント ○児童に気付きや疑問を持たせてから、学習問題を設定する。 ○設定した学習問題を基に、学習計画を考えさせる。 ○追究活動の中で、学習問題と平時のめあて(学習課題)とのつながりを意識させる。	○児童に気付きや疑問を持たせてから、学習問題を設定する。 ○設定した学習問題を基に、学習計画を考えさせる。 ○追究活動の中で、学習問題と平時のめあて(学習課題)とのつながりを意識させる。	○児童に気付きや疑問を持たせてから、学習問題を設定する。 ○設定した学習問題を基に、学習計画を考えさせる。 ○追究活動の中で、学習問題と平時のめあて(学習課題)とのつながりを意識させる。	○児童に気付きや疑問を持たせてから、学習問題を設定する。 ○設定した学習問題を基に、学習計画を考えさせる。 ○追究活動の中で、学習問題と平時のめあて(学習課題)とのつながりを意識させる。	○児童に気付きや疑問を持たせてから、学習問題を設定する。 ○設定した学習問題を基に、学習計画を考えさせる。 ○追究活動の中で、学習問題と平時のめあて(学習課題)とのつながりを意識させる。	○児童に気付きや疑問を持たせてから、学習問題を設定する。 ○設定した学習問題を基に、学習計画を考えさせる。 ○追究活動の中で、学習問題と平時のめあて(学習課題)とのつながりを意識させる。
手立て⇒	A①身近なことを題材に挙げる。 A②資料提示の工夫(資料の一部を隠すなど)を行う。 A③題材に対して気付きや疑問を持たせる。 A④気付きや疑問を教師が意識的に仲間(キーワード)分けして板書する。 A⑤気付きや疑問に対して、問い返ししながら、児童に予想を出させる。 A⑥自分の考えを持ちやすい場面(予想など)で、自分と相手の意見が同じか違うか考えさせながら対話させる。 A⑦気付きや疑問を基に、調べていきたいことを考えさせる。 A⑧調べていきたいことを学習問題として書かせる。 A⑨個別に持った学習問題を全体で交流し、学級の学習問題を設定する。	B①学習問題の解決のために何を調べるとよいのかを考えさせる。 B②調べるといふ考えたことをグループで話し、何から調べたらよいと考えさせる。 B③学習問題の解決のために調べる方法を考えさせる。 B④調べていくどのような情報が集められそうか予想をさせる。	C①学習問題を確認する。 ・知りたいことを図や表に表し、単元全体を見通すことができるようにする。 ・学習問題と学習計画を教室内に掲示し、常に振り返らせる。 C②学習問題の解決のために調べる内容を整理する。 C③調べる内容について、予想をさせる。 C④資料(写真、教科書等の文章等)を一つずつ確認し、どのようなことが分かる資料なのか考えさせる。 C⑤限定した資料で調べさせる。 C⑥立場ごとに関係する資料を分けて提示する。 C⑦様々な資料を見せ、読み取りの視点を増やす。 C⑧問題の解決に必要な情報があるのか考えさせる。 C⑨調べた内容をペアやグループで伝え合わせ、確認させる。 C⑩調べた内容について、問い返して、事実相互に関連付けて考えさせる。 C⑪学習問題について、学習課題(本時のめあて)とのつながりを意識して記述させる。	D①事実を調べさせた後に、意味を問う発問を段階的に行う。 D②調べた事実と考えを明確に分けるようにさせる。 D③根拠となる資料を確認する。 D④話し合いの目的・ゴールを示す。 D⑤話し合いの視点を考える。 D⑥自分の考え(予想など)を持ちやすい場面、ペアやグループでの話し合いの時間を設定する。 D⑦話し合った内容のまとめ方を例示する。 D⑧キーワードを挙げる。 D⑨まとめ方に関する判定基準を示す。 D⑩掲示物を活用し、これまでの学習を振り返らせる。 D⑪よく書いている児童の考えを紹介する。	E①単元全体のまとめ方を例示する。 E②キーワードを挙げる。 E③まとめ方に関する判定基準を示す。 E④ノートやワークシート、掲示物などを活用し、これまでの学習を振り返らせる。	F①新たな学習問題を提示する。 ・子どもの考えを紹介する。 ・社会的問題を含んだ資料を提示し、学習問題を設定する。 ・ゲストティーチャーに新たな学習問題につながる情報を提供してもらう。 F②これからの自分たちの姿を意識しながら対話させる。 F③自分たちでできるかできないかの判断を全体で行い、考えさせる。 F④学んだことと自分たちの生活(自分にできること)とをつなげて考えさせる。

図 5 各学習過程において取り入れたい手立て(手引き_手順 3・手順 4)

手引きの詳しい使い方は、こちらから⇒ **click**

引用文献

- (1) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』 2016 年 12 月

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm

- (2) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』 別添 3-6 2016 年 12 月

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_3_1.pdf